



地球温暖化対策に関する、日本の計画策定をおこなっています。いま世界では、温暖化の話が大きく取り上げられています。国内でもそうですし、世界全体の取組でもあります。たとえばこれまでの公害であれば、ある工場から有害なものがでる。そこへの対策を打つ。ということでしたが、CO₂の場合はすべての人がだしている。直接だすかどうかは別にしても、電気を使ったりクルマに乗ったりという話でいけば、全員に関わってくるので、対策の範囲は広いです。温室効果ガスというのは、身近な問題です。

100年後、私たちはもういない。それでも、100年後の地球のことを、私たちは考えなければならぬ。



Mission 03

気候変動×未来

土居 健太郎

地球環境局 総務課
低炭素社会推進室 室長
平成2年入省



東京都 霞ヶ関
Tokyo Kasumigaseki



ただ直接的な有害性がない。そして出した瞬間に危ないというタイムスパンではなく、かなり遅れて影響が出てくるものです。たとえば影響が出るまでの時間が100年あるとすると、100年先のことを考えて行動するのは相当難しいことです。ただ100年後に自分たちの子孫がいたとして、その時にはもう手のほどこしようがないほど地球環境がひどくなっている可能性もあるので、「何でそんなことしたの?」と言われぬようにいまから対策をする。「後悔しない政策をする」というのが、国際的なスローガンになっています。私も、「あの時やっておけばよかった」と子孫に思われるのは避けようと思っています。環境によくないとわかってはいても、明日の仕事、明日の食べもののほうを優先しがちなので、それをどうコントロールするか。台風が非常に強くなっているとか、いろいろな生物が北上しているということからも、地球環境はこれから加速度的にひどくなっていくおそれがあるのです。

CO₂は、
宇宙からも見張られている。

地球の温暖化が進む中、省エネ技術も進んできました。日本が温暖化問題に対しても取り組めることは、日本の技術を使って世界のCO₂排出量を抑えていくことです。どのような分野から、どれくらい温室効果ガスが排出されているかを取りまとめる「排出量目録」の作成も私の業務です。たとえば、日本であればエネルギー関係だけでも50本近い統計があり、日本全体でどの分野でどういう燃料が何トン消費されたかが全部わかる。それを言えば、CO₂の排出量の計算ができます。



ところが途上国に行くと、必ずしも統計がそろっていない。そこで排出量算定のサポートをおこなっているんです。毎年途上国向けにワークショップをおこない、温室効果ガスの排出量の計算方法などをレクチャーしています。また、日本は宇宙から温室効果ガスの観測をする、世界で初めての専用人工衛星「いぶき」を開発しました。2009年1月に打ち上げられ、全地的なCO₂の分布に関するデータが入手できるようになりました。まずは実態を把握することが大事。どこからどれだけ出ているかがわからないと、対策も打てないということです。そんなこともしながら毎年4月までに、排出量目録（インベントリ）を国際気候変動枠組条約の事務局に提出するという義務も果たし、その後、条約事務局の専門家による審査を受けています。幅広い分野の統計データに関して、厳しく詳細な議論がなされ、大変ではありますが、やりがいのある仕事です。



総理大臣のクールビズ姿を
はじめて見た日は、うれしかった。

温暖化対策のことで言うと、私はこれまでもいろいろな仕事をしてきました。その中のひとつがクールビズの創設です。「スーツは軍服に起源を持ち、改良が数百年繰り返され完成形としてのいまのかたちなので、変えることはできないだろう。さらにネクタイはビジネスという同じバトルフィールドに立っているという理。ラクしたいとか暑いからという理由だけでは、はずせないものだろう」。様々な関係者のお話を聞き、議論をした上で、いったんはそう結論づけましたが、当時の小泉総理と、当時経団連の会長だった奥田さんに、「クールビズが日本のビジネスの制服なんです」と国民に訴えてもらうこととなりました。総理がクールビズ姿で新聞で呼びかけ、奥田さんには愛・地球博でクールビズファッションショーに登場していただいた。「総理がそれでいくなら」と、企業の社長さんにも広まっていきました。小泉総理のノーネクタイ姿をはじめて見た時は、驚きとうれしさがありましたね。



2011年からはスーパークールビズになり、私も夏はポロシャツを着ています。CO₂対策としても、アイロンをかけなくていいし、簡単に洗える。家の節電にも貢献しているんだらうと実感しています。日本は、京都議定書第一約束期間の目標であるCO₂マイナス6%は達成できそうですが、先進国は2050年までに80%減という長期目標を掲げています。温暖化対策は息の長いもので、一見すると昨日と今日は変わらないように見える。でもふと振り返ると、ぜんぜん違っている。未来はなかなか見えなくて、ハードルが高くて跳べないなと思うんですけど、実は少しずつ前に進んでいる。よくなっている。それを実感できるところが、この仕事の面白さだと思います。

